

笹川保健財団 地域啓発活動助成

2021年 9月 10日

公益財団法人 笹川保健財団

会長 喜多悦子 殿

2020年度地域啓発活動助成
活動報告書

標記について、下記の通り活動報告書を添付し提出いたします。

記

活動課題

文京区認知症診断後支援モデル事業普及啓発活動

活動団体名： 東京都訪問看護ステーション協会文京区部会

活動者（助成申請者）名： 株式会社 Creade 直江 礼子

1.活動の内容・実施経過

文京区では認知症診断後支援モデル事業として令和 2 年より初めて認知症と診断され、これまで介護保険サービスの利用歴のない方へ地域医療・介護・福祉などへつなぐことを目的に医師の指示書によらない、看護師による訪問対応を行う契約を文京区と東京都訪問看護ステーション協会文京区部会との契約により開始することになった。この取り組みを始めるにあたり地域における認知症の理解と訪問看護ステーションの普及啓発活動を行うため助成金を申請し活動を行うこととした。

認知症診断後支援モデル事業（のちに「認知症ともにパートナー事業」と名称決定）は令和 2 年 4 月開始予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言を受け開始が令和 2 年 9 月開始へずれ込むこととなった。

当初、顔の見える連携の機会を得るため医療職・介護職以外の一般の方の参加も見込み「地域交流会」として文京区内の会場にて計 3 回の講演会・研修会・グループワークなどを計画していた。

第 1 回は 2020 年 7 月開催を予定していたが実施は 9 月 9 日となり、助成期間中に「認知症の理解と支援を学ぶ」と題した全 3 回の勉強会を開催した。

第 1 回 2020 年 9 月 9 日

講師 都立駒込病院 認知症認定看護師 鳥山 美鈴 先生

第 1 回は会場とWEBでのハイブリット開催とし、文京区内の訪問看護ステーションに勤務する職員向けに認知症の理解についての講義を認知症認定看護師より行った。

会場参加者 12 名 WEB参加者 30 名

令和2年9月9日

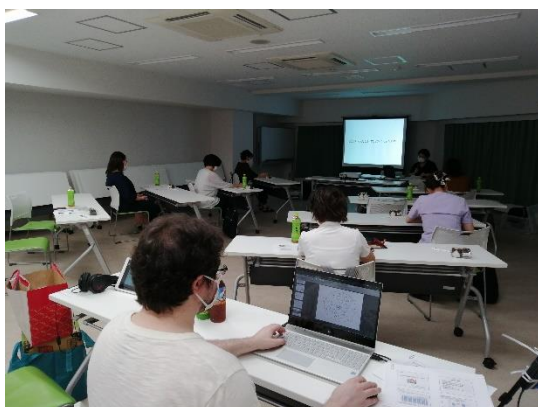
認知症の理解と支援について学ぶ



都立駒込病院 鳥山美鈴
認知症看護認定看護師

コロナ禍における認知症の人の変化

- 施設内におけるクラスター発生で高齢者のコロナウイルス感染
- 病態認識のできない認知症の人の隔離処遇
- 高齢者の認知機能やADL低下
- 在宅の認知症の人の生活の変化
認知症の人との家族の向き合い方の変化

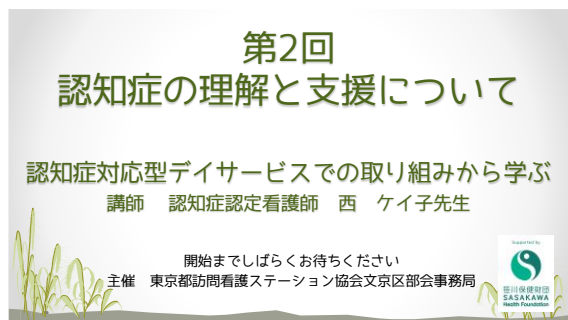


第2回 2021年1月21日

講師 デイサービスなごみの家 認知症認定看護師 西 ケイ子 先生

第2回は緊急事態宣言中であったため、完全WEB開催にて認知症対応型デイサービスでの実際の取り組みについての講義をしていただき、その後参加者交えディスカッションを行った。

WEB 参加者 20名



<事業所がある地域紹介>

四街道市の場所(地図の赤い部分)

- ・人口 94,865人(令和2年4月)
- ・世帯数 41,744世帯
- ・高齢化率 28.6%(5%~55%)
- ・企業の事業所数、工場は少ない。農業産出額も低い。
- ・東京、千葉のベッドタウン
- ・戸建て持ち家率78%(2015年)
- (団地=戸建て分譲団地の事)
- 世帯:親子世帯⇒老人世帯⇒独居
- 高齢者・認知症支援対応が急務



第3回 2021年7月14日

アドバイザー講師 順天堂東京江東高齢者医療センター精神科医 古田 晶子 先生

第3回は会場でのグループワークを予定していたが、緊急事態宣言を受け区内の会場使用が中止となったためWEB開催へ変更し、症例を通してグループワークから学ぶ会として「認知症ともにパートナー事業」活動の中での困難事例2例を題材に順天堂精神科医 古田先生にアドバイザー講師としてご参加いただきWEB上グループワークと古田先生のミニ講義を実施した。

WEB 参加者 50名



第3回は会場でのグループワークを予定していたが、緊急事態宣言を受け区内の会場使用が中止となったためWEB開催へ変更し、症例を通してグループワークから学ぶ会として「認知症とともにパートナー事業」活動の中での困難事例2例を題材に順天堂精神科医 古田先生にアドバイザー講師としてご参加いただきWEB上グループワークを実施した。

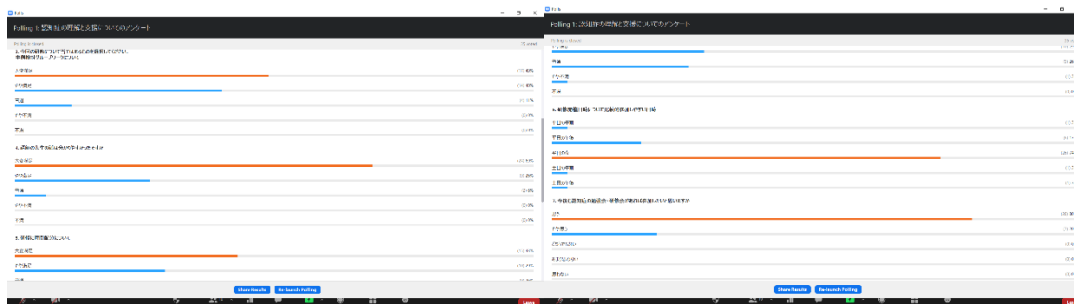
2.活動の成果

参加した感想として計3回の認知症に関する講義を通して認知症の理解とそのかわり方に対する理解が深まった。

3回ともに平日夜の開催だったが、WEB開催となったことで、これまで会場へ来ることが出来なかった子育て世代のママナースが参加することが出来たり、第2回は千葉県の四街道市の事業所とインターネット回線をつなぐ講義で、現場での実際の活動や取り組みなどを生で聞くことができた。

第3回は職種を問わずの参加を呼びかけ看護師の他セラピスト、ケアマネジャー、地域包括支援センターの職員など幅広い職種の方参加があり、WEB上で意見交換ができた。

第2回、第3回の開催は講演終了後に選択式の設問でアンケートを実施、自発的な申し込みでの参加者が多いこともあるが、満足度は高く、今後も勉強会や講演会への参加意欲も高い結果となった。



(第3回目研修後のアンケート集計結果より)

1年目は手探りで進んでいた認知症とともにパートナー事業は2年目に入りその門戸を広げる活動を展開しており、本助成による研修で地域の認知症対応力の底上げの1要因になったのではないかと考える。

3. 今後の課題

文京区の高齢化率は全国に比べ低く、今後急増する独居高齢者への対応は待たなしの状態であり、今後も地域において多職種の連携が不可欠であり、継続的な活動を行っていく必要性を改めて感じた。WEB会議元年ともいえる令和2年の活動を通し、インターネットを介しての会議や講演などへの参加を通しての連携を図っていく必要性は十分に感じた。

また、遠方からでも気軽に参加できるなどメリットは多いが一方で双方向での交流はまだ課題があり、受け身の学びとなりがちになってしまう傾向があると感じた。

開催にあたり、参加者がどの程度の知識を有しているか図りにくく、演者が講演する際にどこまでの話をすればよいのか、といった戸惑いもあった。

主催者側としてのWEB会議運営についてはWEB会議が大分浸透してきたとはいえ不慣れな方は少なくともスムーズな運営を行っていくためにはサポートが必要だと感じた。特に介護職の方は不慣れなことが多いため参加をためらってしまう傾向が少なからずあり、WEB開催でもやや発言が少ない傾向も見受けられた。

4. 活動の成果等の公表予定

文京区では年に1回医師会、薬剤師会、歯科医師会、訪問看護ステーション連絡会の4会合同での医療学術集会を行っているが残念ながら令和2年と令和3年は開催が出来なかった。

今後状況を鑑みながら開催の是非を判断していくこととなるが、開催される際には演題として申請する予定である。